

# まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお寄せください。



## 秋の福津に「味力」大集合

九州食の収穫祭 in 福津



▲初めてのアイスクャンディのお味は？

▶実行委員長 高島亮一さん

九州各地の食材とグルメが一挙に集まった、「九州食の収穫祭 in 福津」がありました。福岡漁港で10月17日、18日にかけて、約5万5千人が訪れました。会場では、九州の美味しい肉や魚、市内のお店の自慢の食べものが並びました。市の自慢のタイやイカの直売会も盛り上がりしました。中でも、市内在住で漫画家のうえやまとち先生考案「特製鯛茶漬け」は大人気。店の前には、味わおうと並ぶお客さんの長い列ができました。

古賀市から訪れた木下さんは「地元はもちろん、他県のグルメも味わえてお得ですね」と語ります。また、イベント「おいしいものを食べて、福津の魅力を知るきっかけにしたいだければ」と力強く語りながら、今後の地域の発展につながることも期待を寄せていました。

## 美しい音楽があちこちで

音楽散歩がありました



▲多くの人が盛り上がったサプライズ演奏

津屋崎千軒一帯で10月11日、音楽散歩が開催されました。訪れた人々は、美しい音色であふれるまちを歩きながら、コンサート会場やおいしい食事に立ち寄り、楽しんでいました。実行委員の児玉麻紀さんは、「多くの人に訪れてもらってうれしい。まちが元気になるきっかけに」と、思いを語ります。また、前日には波折神社付近で、手づくりの品が並ぶ「手づくり市」も開催され、多くの人でにぎわった秋晴れの二日間でした。

## 秋の実りを身近に

コスモスマツリがありました



▲刈り取った稲を手に笑顔満点

西郷川花園でコスモスマツリが10月11日に開催されました。訪れた人たちは、満開のコスモスやひまわりに囲まれながら、気に入った場所で記念撮影をしていました。さらに、太鼓の演奏や餅まき、出店の食事を楽しんでいました。また、隣の水田では、6月に自分たちで植えた稲の刈り取りをしました。黄金色に実った稲を刈り取るのは力のある作業です。慣れない鎌を手に取り、親子で協力して収穫しました。

## 地元企業から続々と応援が

世界遺産登録活動支援金の寄付がありました

遠賀信用金庫から、9月16日に、世界遺産登録活動支援金が贈呈されました。この取り組みは、同信用金庫が6月から8月にかけて売り出していた「宗像・沖ノ島と関連遺産群」応援定期IIの販売に伴うものです。

支援金を手渡した同信用金庫理事長の岡部憲昭さんは「地元の金融機関として何か

貢献できないかと考え、このような取り組みを行いました。登録に役立ててください」と語りました。また、受け取った小山市長も、「応援ありがとうございます。引き続き登録を目指して、しっかりと活動を続けていきます」と応え、世界文化遺産への登録に向けて、決意を新たにしました。



▲寄付を手渡した岡部憲昭理事長(左)と小山市長(右)

## 元気な学校生活のために

あんずの里市利用組合から寄贈



▲小山市長に寄付を手渡した柴田文敏組合長と組合の皆さん

あんずの里市利用組合から、10月13日に寄贈がありました。この寄贈は、市内の新鮮な野菜などを販売しているあんずの里市で開催された、さまざまなチャリティーイベントで集めた募金によるものです。4回目になる今年は、津屋崎地域の小・中学校に一輪車などの教育用品が贈られます。

## いつまでもお元気で

100歳を祝って小山市長が訪問



▲友野千代さん(左から二人目)を囲む娘さんたちと小山市長

100歳以上の高齢者の家を、9月17日に小山市長が訪問しました。最初に訪れたのは、市内最高齢のかたの一人、109歳の友野千代さん。「かわるがわる会いに来てくれる子どもたちと顔を合わせるのが、何よりの楽しみです」と元気に笑顔で語りました。現在市内の100歳以上のかたは36人。いつまでもお元気であることをお祈りします。